

## 異なる作型でのイチジク普通型品種‘蓬萊柿’の雄ずい着生

野方 仁・矢羽田二郎 (福岡県農業総合試験場豊前分場)

Hitoshi NOGATA and Daijirou YAHATA:

## Stamen Attached in First Crops of Common-type Fig ‘Houraishi’ in Different Cultures

イチジクはクワ科に属し雌性雌雄異株で、隠花果内の小花の形態によって雄花および虫えい花(雌花の一種)が着生するカプリフィッグ型と雌花のみが着生するフィッグ型に大別され、さらにフィッグ型は結果習性からスミルナ、サンベドロおよび普通の3型に区分される。そのため、イチジクの交雑育種はカプリフィッグ型品種を花粉親とし、フィッグ型品種を種子親として行われ、優良な形質を持ったフィッグ型品種同士を直接交雑することはできなかった。しかし、1997年に普通型品種‘蓬萊柿’の一部の夏果で小花に雄ずいが着生しているものをみつけた。そこで‘蓬萊柿’の雄ずい着生の特徴を明らかにするため、異なる作型での雄ずい着生程度と着生部位を調査した。

## 1. 材料および方法

1998年に福岡県行橋市、京都郡犀川町および豊津町の‘蓬萊柿’の1月加温ビニルハウス栽培3園と露地栽培4園で、加温栽培の夏果は5月下旬、秋果は7月中旬、露地栽培の夏果は7月上中旬、秋果は8月下旬に1園につき出荷適熟果30果を採取して、雄ずいの着生程度および着生部位を調査した。雄ずい着生程度は、雄ずいの着生した果実の調査果数に対する割合を雄ずい着生果の割合とし、1園につき雄ずいの着生した総小花数を調査果数で除したものを1果当たり雄ずい着生小花数とした。雄ずい着生部位は、果実を縦に3等分して、果頂部、赤道部、果柄部とし、それぞれの部位別に雄ずい着生小花数と割合を調査した。

## 2. 結果および考察

加温栽培園の夏果では雄ずい着生果の割合は0~3%で、1果当たりの雄ずい着生小花数も0~0.03花/果と著しく少なかった。露地栽培園の夏果では雄ずい着生果の割合は37~93%で、1果当たりの雄ずい着生小花数も0.57~2.53花/果と園でばらつきがあるものの加温栽培園と比べて雄ずい着生が多かった。また両作型とも秋果には雄ずい着生はなかった(第1表)。

‘蓬萊柿’の夏果内の雄ずい着生部位は、加温栽培園では雄ずい着生のあった2園とも果頂部のみであった。露地栽培では果頂部から赤道部が多かったが、果柄部にも少数存在した(第2表)。

以上の結果から、普通型品種‘蓬萊柿’の雄ずいは、園により着生程度が異なるが、露地栽培、加温栽培とも夏果のみ着生し秋果には着生せず、加温栽培の雄ずい着生は露地栽培に比べて、著しく少ない。雄ずい着生部位は露地栽培では、果頂部から赤道部が多かったが、果柄部にも少数存在することが明らかになった。この着生部位は、カプリフィッグ型品種の雄花が果頂部付近に多数着生する<sup>1)</sup>のとは異なった。また加温栽培では調査を行った3園で雄ずいの着生した小花が2花しかないため、着生部位は果頂部しか確認できなかった。

## 引用文献

- 1) STOREY, W B Advances in Fruit Breeding pp 568 Purdue Univ Press, West Lafayette, Ind, 1975

第1表 異なる作型でのイチジク‘蓬萊柿’の雄ずい着生程度

作型 <sup>1)</sup>	園	夏果		秋果	
		雄ずい着生果の割合 <sup>2)</sup> (%)	1果当たり雄ずい着生小花数 <sup>3)</sup> (花/果)	雄ずい着生果の割合 <sup>2)</sup> (%)	1果当たり雄ずい着生小花数 <sup>3)</sup> (花/果)
加温	行橋A	3	0.03	0	0
	行橋B	3	0.03	0	0
	行橋C	0	0	0	0
露地	行橋D	63	1.37	0	0
	行橋E	93	2.53	0	0
	犀川	37	0.57	0	0
	豊津	57	1.17	0	0

注) a) 加温栽培の夏果は5月下旬、秋果は7月中旬、露地栽培の夏果は7月上中旬、秋果は8月下旬に出荷適熟果30果について調査

b) 雄ずいの着生した果実の調査果数に対する割合

c) 雄ずいの着生した総小花数を調査果数で除したもの

第2表 異なる作型でのイチジク‘蓬萊柿’の雄ずい着生部位

作型	園	雄ずい着生小花数			雄ずい着生小花の割合		
		果頂部(花)	赤道部(花)	果柄部(花)	果頂部(%)	赤道部(%)	果柄部(%)
加温	行橋A	1	0	0	100	0	0
	行橋B	1	0	0	100	0	0
	行橋C	0	0	0	0	0	0
露地	行橋D	14	20	7	34	49	17
	行橋E	33	33	10	43	43	14
	犀川	3	13	1	18	76	6
	豊津	14	17	4	40	49	11

注) 調査果実夏果で、着生部位は果実を縦に3等分して、それぞれ果頂部、赤道部、果柄部とした